



原田ゼミの活動 川から考える海の 環境問題

海ごみ問題について

はじめに・・・

現在海ごみが問題となっています。世界の海で問題となっているプラスチックごみの多くは、生活ゴミと呼ばれる。我々人間が生活によって海や河川に流出したものです。これらが海岸に漂着することで景観を損なうだけでなく、海洋生物の誤飲、誤食による死亡や、生態系の変化を引き起こすといった影響があります。

淀川・海老江干潟での調査

川から海へ流れ出すごみの回収と実態把握を目的とし海老江干潟は数多くの種類の野鳥が観察できることから人気スポットとして知られています。しかしその一方で、漂着ゴミや不法投棄されたゴミなどが多く存在し、それが原因で干潟の美しい景観が損なわれています。

この活動はNPO法人ゴミゴ・ゴミ拾いネットワークの皆さんが中心となっている活動で、私たち原田ゼミナールはボランティアスタッフとしてこの活動に参加しており、毎月第2日曜日の午前10時から12時までの2時間淀川駅から歩いて二分ほどの場所にある左岸側で清掃活動、漂流ごみの調査を行っています。

冠島（京都府舞鶴市）での調査

2年生はゼミ合宿として京都府の北側に位置する冠島で漂着ペットボトルの調査を行いました。

冠島はオオズナギドリ保護のため文化庁の許可がなければ立ち入ることできない無人島です。この調査では、漂着ペットボトルの製造国を明瞭なことを目的に実施しました。ペットボトルのサイクルマークやバーコードからどのような国からペットボトルが漂流してくるのか調査しました。

マイクロプラスチックとは



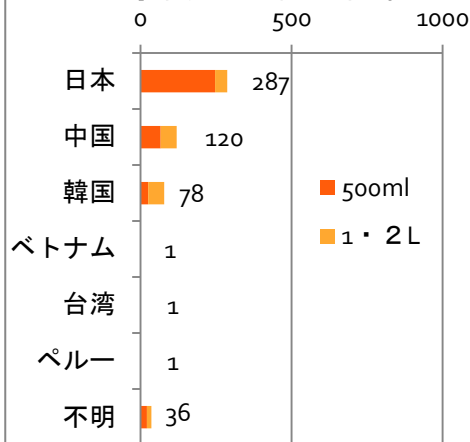
マイクロプラスチック問題

最近では、マイクロプラスチック問題が注目を集めています。元は1つのゴミが破片となって小さくなり5mm以下となるとマイクロプラスチックと呼ばれます。これらをエサと勘違いした魚などが食べてしまい、人間がその魚を食べて健康被害なども懸念されるため注目を集めています。

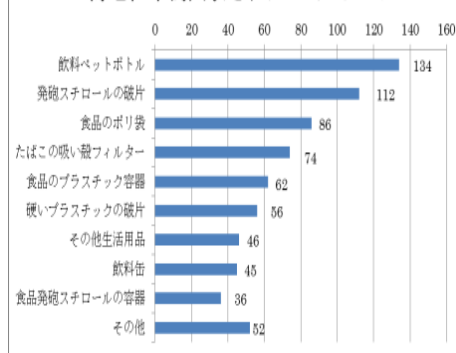
天然遡上魚復活プロジェクト

近年、ダムやコンクリート堤防などの河川構造物によって、アユの遡上が妨げられることが原因で天然アユが減少しています。アユ以外にもウナギやカジカなどの生態系にも影響を与えていて、そこで私たちは、天然遡上アユの復活のために、桂川で、アユの稚魚を捕獲して、大きさを調査して上流に放流しています。

冠島漂流ゴミ調査結果



海老江干潟回収されたゴミTOP10



調査時期：2017年5月、7月、9月

今回の調査では海ごみは周辺国から多く漂流しているというイメージに反し日本のゴミが多く発見される結果となりました。

